

## 「やる気応援奨学金」レポート

上海に短期留学し中国語学ぶ  
ゴミ事情も調査し意識を知る

法学部法律学科三年 豊田 義人（私立帝京大学高校）



はじめに

私は昨年の八月から九月までの一カ月弱「やる気応援奨学金」の支援の下、復旦大学で短期留学をしてきました。中央大学で中国語を学習し始め、日本で勉強するだけでは物足りないと思い留学を決意しました。目的の一つである語学力の向上はもちろん、今回は中国でゴミ事情についての調査をしました。奨学金をいただくまで準備にかなり時間を掛けましたが、結果としてこの奨学金をいただくことが出来、更に貴重な経験が出来て良かったです。ここではほんの一部ですが留学の様子を紹介し

たいと思います。

## 苦勞の連続

海外旅行は慣れているので中国へは何の問題もなく着くことが出来ました。しかし、そこから苦勞の連続でした。まず、エアポートバスに乗るまでは良かったのですが、停留所名が聞き取れず、窓から見える「復旦（復旦）」の文字を頼りに降りることになりました。また、宿泊先の場所も分からず、スーツケースを引きながら蒸し暑い上海の町で宿泊先を探し歩きまわりましたが、これまた言葉が聞き取れ

ず、英語やジェスチャーを駆使して何とか二時間程掛けてようやくたどり着きました。

私は中央大学の学期末試験や台風の影響もあり、一般の留学生より数日遅れて入りました。そのため、きちんとしたクラス分けのテストは受けず、クラスを決めるのにもかなり苦勞しました。結局三クラスほど回ってようやく決めることが出来ました。

町に出ているお店の人や学生などとお話をしている時も、言葉を聞き取るのになかなか苦勞しました。繰り返し返して聞いても分からない場合は英語やジェスチャーを使いました。ちょっとしたことから相手の言っている

た内容に気付きその場で聞き取れなかった自分が情けないと思うこともしばしばありました。上海の人たちはみんなが標準語を話すわけではなく、上海語という方言で話される時もあり、当然聞き取ることが出来ず、これまた苦勞をしました。

私は普段それほどしゃべりな方ではないですが、今回はしゃべらないといけない状況をあえて作り、会話の練習に励みました。前述したように外国語でコミュニケーションを取るのには本当に難しいですが、分かる単語を拾い上げ理解する良い練習になりましたし、多少めんどくさな文法であっても、日本人だからということでも理解してくれる方が多く本当に助かりました。

一番の苦勞（貴重な経験ですが）は急性胃腸炎により入院をしたことです。ある朝、下痢が止ま

らなくなり、日本から持参した薬を飲んでもなかなか治りませんでした。原因は恐らく屋台の食べ物だったと思います。病院に行こうにも、どの病院へ行けば良いのか分からなかったので、学生マンシヨンの受付の人たちに聞いて、タクシーで行こうとしましたが、運転手さんたちからこんな病院は知らないと言われ、結局その日はあきらめて寝ました。

翌日、日本でメデイカルサポートサービスに加入していたのに気が付き電話をしました。そして、通訳の方に付き添ってもらい、病院を探し、三日間入院することになりました。いきなりの入院で、貴重品程度しか持っておらず、入院していた三日間は本当に無駄なくらい暇でした。せめて単語帳くらいは持ち歩いてれば良かったと後悔しました。学生マンシヨンは、トイレや風呂場がすごく汚かったです。ですが、病院は、ここで暮らしたいと思ったほど綺麗で設備もよく整っていました。記憶にはありませんが入院は小さい頃以来でしたし、まさか異国の地で入院すると

は思ってもみませんでしたので、今思えばとても貴重な経験となりました。

### 中国のゴミ事情

先にも述べましたが、今回の留学の目的でもあったゴミの調査は



上海一汚かった長安路

中国人のマナー意識を知ると共に、上海万博以降に施行された条例に対する市民の意識も調査出来る一つの方法だろうと思いを調査しました。中国は汚い、臭い、空気が悪いといった悪印象を持っている人たちがほとんどだろうと思います。

私が見た範囲では、条例が施行されているとは、言え、かなりのゴミが浮かんでいる小川、全く分別出来ていないゴミの集積所、そして何と云ってもたばこの吸殻がものすごく多かったです。しかし、すべてが汚い、臭いというわけではなく、綺麗に整備されている公園やゴミ一つない川、ゴミの分別がきちんと出来ている住宅街もありません。上海は観光客も多く訪れていますので、観光地は何人も清掃員の方が掃除をしていますし、ゴミ箱が狭い間隔で配置されています。一方で、ゴミの処理が不適切、特にゴミの分別に問題があると思われる箇所も少なくありませんでした。例えば、観光客があまり訪れない路地裏や目に付かない植え込みなどは清掃が徹底されおらず日本では見ることのないほどのゴミが散らかっていたり捨てられたりしていました。ゴミの最終処分場へは行きませんが、地域ごとのゴミ捨て場を見ても、ゴミの分別がいい加減で、何でも良いからゴミはここにに入れてしまえといった様子がかげえるほど散乱していました。扉が開いたままになっている所もあり、臭いものがすごかったです。

上海の町のゴミ箱はたばこの吸殻・リサイクル可能なゴミ・生ゴミといった三つに分類出来るものが多く見受けられましたが、現地の人の分別に対する意識は低いようで生ゴミの所に関係のない大きなプラスチックのゴミが入れら

れていたたりなどしていました。

## 中国という国

今や新聞やニュースで中国の話題が尽きる日はないと言っても過言ではないと思います。私が訪れた頃に起きた反日デモ、その原因である尖閣問題、PM2.5の問題、鳥インフルエンザなどさまざま

まな悪いニュースが目につきます。私の家族・親戚・周りの人も中国という国に対して悪いイメージしか持つておらず、中国へ行くのには反対していました。確かに中国のことをよく知らない初めは嫌悪感しか抱かなくなるかも知れませんが、これはどこの国へ行って同じことで、その国のルールや



学校近くのゴミ捨て場

国民性を受け入れることで、少しずつ慣れていくと思います。怒っているように聞こえる話し方も、単に自己主張が激しいだけだと思うことで、それほど過剰に反応しなくなり、初めはうるさいと思っていた大通りや飲食街も次第にぎやかで楽しいと思えるようになり、海外で仕事をなさっている弁護士の方が「日本の常識は世界の非常識であり、日本では周りの空気を気にしがちだが、世界で活躍するには周りがどうであれ自分の意見を言うことが大事」だとおっしゃっていました。特に自己主張のぶつかり合いが激しい中国では空気を気にしていたら後悔するだけだと思います。私が今回訪れたのは上海だけであり、かつ短期間の滞在で中国すべてが分かったとは到底言えませんが、しかし、少なくとも思っているほど嫌な国ではなく慣れればむしろ住むのが楽しい国であると感

じました。

おわりに  
今回の留学で自分の語学力がど

こまで向上したかは分かりませんが、中国語を更に勉強したいという気持ちが強まりました。上海滞在中に、特に聞き取る力が不足しているということは痛感しました。帰国してから聞き取りの練習は欠かさずしていますが、レベルアップをなかなか実感出来ないうす。今年の秋に長期留学をしようと考えていますので、それを目標に更に勉強をし、再び現地で実践してみたいと思います。今回の留学での唯一の後悔は中国人の友達を作ることが出来なかったことです。これも今秋の課題とします。

色々な苦労話を書いてきましたが、結果的にはプラスになるものばかりであり、実家暮らしの私にとって一人暮らしに似た経験も出来、中国を訪れる前より少しは成長出来たと思えました。

最後に、何度も話を聞いて添削をしてくださった遠藤先生、面接の際にアドバイスをくださった中国語の先生方、心配をしつつも支えてくれた家族や友人に感謝をしたいと思えます。ありがとうございます。